

発生予防（一次予防）

（1）教育、広報等による普及啓発の推進

○20歳未満の者、若い世代、妊産婦、女性や高齢者等への飲酒のリスクに関する教育や啓発の推進

- ・学校教育においては、引き続き、飲酒が心身に及ぼす影響等を正しく認識させ、20歳未満の段階では飲酒をしないという判断力や態度、生涯にわたって健康の保持増進する資質・能力を養うよう教育を実施します。
- ・20歳未満の者や大学生などの若い世代に対して、飲めない体質や飲酒のリスク等アルコール健康障害に関する啓発資料の作成、配布や自助グループの当事者等を講師とした学習機会等を通じて、アルコール健康障害に対する正しい知識の普及啓発を図ります。
- ・「青少年の非行・被害防止道民総ぐるみ運動強調月間」（7月）、「子供・若者育成支援強化月間」（11月）等の啓発イベントを活用して、20歳未満の者を対象とした普及啓発活動を推進します。
- ・母子手帳交付時等において、市町村と連携し、妊婦に対して飲酒の有無の確認や飲酒が自分自身や胎児・乳児に及ぼすリスクについて説明し、妊娠中や授乳期間の禁酒についての保健指導が行われるよう促すとともに、家族間で共有し、未然に防ぐことができるよう促します。
- ・特定健診・特定保健指導の実施においては、医療保険者及び産業医と連携し、飲酒習慣や飲酒量を確認し、適度な飲酒についての保健指導が行われるよう促します。

機関名	取組状況	実施状況および評価
北海道医師会	依頼に基づき、協力を検討いたします。	実施
北海道精神神経科診療所協会	アルコールの問題を持つ患者に対して診療を行い、アルコール問題での来院ではない患者、家族に関しても、アルコール問題が潜んでいないか留意する。	実施
北海道薬剤師会	・学校薬剤師が学校教育で活用できるよう、小学生、中学生・高校生の発達段階に応じた健康教育教材を作成し、その中に飲酒防止教育について掲載する。 ・第7回薬物乱用防止キャンペーンin北海道において、アルコールの注意点について啓発する予定である。	・学校薬剤師が学校教育で活用できるよう、小学生、中学生・高校生の発達段階に応じた健康教育教材を作成し、その中に飲酒防止教育について掲載する。B ・第7回薬物乱用防止キャンペーンin北海道において、アルコールの注意点について啓発した。B
北海道臨床心理士会	・本会は多領域にまたがった職域を担っているため、医療、福祉、教育、司法等の分野の横断的な問題と位置づけ、会員への情報提供に努める。 ・日本臨床心理士会全国アディクション担当者研修会への出席	・メーリングリストにて依存症関係研修会と当会議の内容について会員に対する情報提供を行った。 ・日本臨床心理士会全国アディクション担当者研修会は行われなかった。 ・会員が必要とした際に関係する情報に、よりアクセスしやすくする工夫が今後の課題。
北海道精神保健福祉士協会	必要に応じての情報提供（継続）	主に、協会だより（会員向け）、HP、フェイスブックを通じての情報発信
日本アルコール関連問題ソーシャルワーカー協会北海道支部	コロナ禍により停滞していた例会の定期開催により情報交換を活性化し具体的な活動方針を打ち出す。	
札幌こころのセンター	・「依存症家族セミナー」を開催し、依存症に関する知識、相談先、医療機関、自助グループ等について啓発を行う。 ・啓発週間でのポスター掲示や、チラシ・リーフレット等の配布、依存症に関する情報や取組を当センターホームページ・SNS等に掲載し、情報発信を行う。	・「依存症家族セミナー」を開催し、当センター医師や専門医療機関専門職の講話、当事者体験談発表等による依存症に関する知識、相談先、医療機関、自助グループ等について啓発を行った。（第1回8/7(3名参加)、第2回10/2(21名参加)、第3回12/14(28名参加)） ・啓発週間でのポスター掲示や、チラシ・リーフレット等の配布、依存症に関する情報や取組を当センターホームページ・SNS等に掲載し、情報発信を行った。
北海道作業療法士会	作業療法士養成施設学生への教育を通じた啓発（継続）	講義等を通して学生への啓発を行った。
北海道産業保健総合支援センター	HP、メールマガジンによる啓発。事業主セミナーを通じ啓発。	HP、メルマガにより情報発信を行った。
北海道大学大学院医学研究院神経病態学分野精神医学教室	1年目学生を対象に、アルコール健康障害に関する講義を実施して、飲酒のリスクを啓発する。	1年目教養コース学生を対象に、アルコール健康障害に関する講義を実施して、飲酒のリスクやアルコール健康障害についての知識を普及・啓発した。

機関名	取組状況	実施状況および評価
札幌医科大学医学部神経精神医学講座	・医学部の学生グループ制ミーティングの際に、学生に対して、飲酒のリスクやアルコール健康障害に関する啓発を行う。 ・医学部の精神科関連講義・実習等で「アルコール依存症」を取り上げ、アルコール健康障害に対する正しい知識の普及啓発を図る。	・医学部の学生グループ制ミーティングの際に、学生に対して、飲酒のリスクやアルコール健康障害に関する啓発を行った。 ・医学部の精神科関連講義・実習等で「アルコール依存症」を取り上げ、アルコール健康障害に対する正しい知識の普及啓発を図った。
北海道教育委員会	小・中・高等学校の学習指導要領（体育・保健体育）を基に体育・保健体育・保健授業で児童・生徒に指導する。	小・中・高等学校の学習指導要領（体育・保健体育）を基に体育・保健体育・保健授業で児童・生徒に指導した。
札幌マック	依存症の観点から、家庭環境や人間関係のおいて、飲酒行動に引き込まれる要因、飲酒がもたらす変容を経験に基づいて伝え、医療機関の紹介をする。	
札幌マック女性共同作業所		
青十字サマリヤ会	教育・広報として大学等にて当法人のPSWスタッフ及び当事者スタッフが講義の中で依存症の理解と回復のプロセスを普及する。	複数の大学から講義及び見学の依頼があり年間100名程の学生に依存症の理解の普及が出来た。
道立保健所	必要に応じて、関係機関等へ情報提供を行う。	必要に応じて関係機関等へ情報提供実施
保健福祉部福祉局障がい者保健福祉課	・啓発資料やホームページ等を活用し普及啓発を行う。 ・道民を対象とした普及啓発セミナーを企画する。 ・適宜、高齢者のアルコール健康障害に関する情報について周知する	・リーフレット、パンフレット等の設置、HPの掲載、セミナーの企画開催を実施。今後も継続。
保健福祉部福祉局高齢者保健福祉課	市町村や地域包括支援センター等を対象としたリーフレット類の配布等による普及啓発活動の展開について検討。	アルコール関連問題啓発週間における厚生労働省の啓発事業の実施や啓発ポスターの活用について、市町村や地域包括支援センターあて周知した。
保健福祉部健康安全局地域保健課	20歳未満飲酒防止強化月間における普及・啓発（4月）	ポスター等による普及啓発に、引き続き取り組む必要がある。
子ども政策局企画課・子ども家庭支援課	市町村保健師等を対象に母子保健対策の強化や研修会を通じて知識の普及を図る。	市町村保健師等を対象とした研修会において、リーフレットを配置し、知識の普及を図った。
環境生活部くらし安全局道民生活課交通安全係	「児童・生徒向け飲酒運転根絶教育パンフレット」（小学1年生向け・中学1年生向け・高校1年生向け）を作成し道内の小・中・高校等に配布する。	「児童・生徒向け飲酒運転根絶教育パンフレット」（小学1年生向け・中学1年生向け・高校1年生向け）を作成し道内の小・中・高校等に配布した。
子ども政策局子ども政策企画課	各強調月間において、酒類の販売窓口における年齢確認の徹底などの「有害環境への適切な対応」を重点課題の一つとして普及啓発活動を推進	

○依存症に対する誤解や偏見の解消に向けた正しい知識・理解の啓発の推進

・アルコール関連問題啓発週間（11月10日～16日）において、自助グループや各種団体等を通じて、20歳未満の者、若い世代、妊産婦、女性、高齢者など特有の影響に留意すべき者の飲酒に伴うリスクや適度な飲酒に関する正しい知識、アルコール依存症の初期症状等について普及啓発を図ります。 ・アルコール依存症は、飲酒をしていれば、誰でもなる可能性があること、飲酒をコントロールできなくなる精神疾患であること、家族等周囲にも影響を及ぼすこと、及び治療や断酒に向けた支援を行うことにより十分回復しうること、について普及啓発を図ります。 ・アルコール依存症に関する正しい知識と理解の促進について、自助グループと連携し、当事者の体験談や講演、活動の紹介を行うなど効果的な知識の普及につながるよう各種機会を通じて普及啓発を図ります。 ・がんや循環器疾患をはじめとする生活習慣病や睡眠に及ぼす飲酒の影響やその他のアルコール関連問題に関する情報をホームページ等の周知ツールを用いて、職域・地域を含む社会全体に対し周知します。 ・アルコール健康障害に関連して生ずる飲酒運転、暴力、虐待、自殺等の防止に資するため、飲酒が身体運動機能や認知機能に及ぼす影響や、飲酒の結果、理性の働きが抑えられること等の正しい知識の普及に取り組みます。
--

機関名	取組状況	実施状況および評価
北海道医師会	依頼に基づき、協力を検討いたします。	実施
北海道精神科病院協会	公的機関等の依頼に応じ、予防活動の支援を検討	

機関名	取組状況	実施状況および評価
北海道精神神経科診療所協会	・うつ病や逸脱行為の背景に潜むアルコール問題の早期発見に努め、酒害教育を実施する。 ・自助グループに関する情報提供を行う。 ・自助グループ等の各種機関の勉強会や講演会の広報を行う。 ・飲酒問題についてのパンフレットなどを用いてわかりやすい指導に努める。	実施
北海道薬剤師会	第7回薬物乱用防止キャンペーンin北海道において、アルコールの注意点についての啓発方法を検討する予定である。 本会ホームページにおいて健康づくりのお手伝いページにアルコールを含め健康に関する情報を掲載する。 薬の適正使用に関する小冊子を改訂し、薬と食べ物・飲み物の相互作用についての掲載を検討する。	第7回薬物乱用防止キャンペーンin北海道において、アルコールの注意点についての啓発した。B 本会ホームページにおいて健康づくりのお手伝いページにアルコールを含め健康に関する情報を掲載している。B 薬の適正使用に関する小冊子を改訂し、薬と食べ物・飲み物の相互作用についての掲載を検討する。B
北海道看護協会	セミナー等当会のホームページに掲載予定、ポスターの館内掲示等による普及啓発予定	・「アルコール関連啓発週間」ポスターを館内に掲示した（令和5年11月） ・「健康に配慮した飲酒に関するガイドライン」本会ホームページに掲載した（令和6年2月）
北海道栄養士会	・令和5年度「アルコール関連啓発週間」啓発ポスターを当会役員(会員)所属の施設内に掲示依頼を行う予定。（令和5年11月）	令和5年度「アルコール関連啓発週間」啓発ポスターを当会役員(会員)所属の施設内に掲示依頼を行いました。（令和5年11月）
北海道臨床心理士会	・本会は多領域にまたがった職域を担っているため、医療、福祉、教育、司法等の分野の横断的な問題と位置づけ、会員への情報提供に努める。 ・日本臨床心理士会全国アディクション担当者研修会への出席	
北海道精神保健福祉士協会	・会員個々の活動地域の自治体との連携（継続） ・幅広い情報提供を行っていく（継続） ・関係機関との連携を図りながら、普及啓発に協力をしていく。（継続） ・自助グループとの連携・支援（継続） ・ホームページの活用や会員向け機関誌等での情報発信が可能なため、随時対応（関係機関からの情報提供も掲載可能）	先の通り、随時対応
北海道精神保健協会	機関誌「心の健康」に適宜掲載するとともに、15地方協会の普及・啓発事業と連携して取り組んでいく。	「精神保健北海道大会」の基調講演でNPO法人ASKの塚本堅一氏と山口達也氏に自己体験の話をしていただき、依存症の予防啓発に効果があった。また、機関誌に講演内容を掲載し、普及啓発を図った。
北海道医療ソーシャルワーカー協会	・依存症リカバリーソーシャルワークチームの活動 ・専門職の相談窓口、専門治療先の窓口の公開	日本医療ソーシャルワーカー協会等と連携して取り組みを継続中です。
日本アルコール関連問題ソーシャルワーカー協会北海道支部	・各会員の所属機関での取り組みや実情を集積して、さらに変動しつつある高齢者の飲酒関連問題への対応を検討をしていく ・R4同様の活動を目指していく。 ・コロナウィルスの感染状況に配慮しながら停滞しがちであった自助グループや関連イベントへの参加を強化していく。	
北海道立精神保健福祉センター	アルコール関連問題の啓発ポスターの掲示やホームページを活用し周知を図る。全道域で活動する精神保健福祉団体等に対する支援協力を図る。	アルコール依存症についてホームページへの掲載、また、関係団体の啓発リーフレット等の掲示により、啓発を行っている。

機関名	取組状況	実施状況および評価
札幌こころのセンター	・自助グループ等を講師とした「依存症家族セミナー」を開催し、依存症に関する知識、相談先、医療機関、自助グループ等について啓発を行う。 ・啓発週間でのポスター掲示や、チラシ・リーフレット等の配布、依存症に関する情報や取組を当センターホームページ・SNS等に掲載し、情報発信を行う。 ・依存症相談窓口等において、高齢者を支援する機関より相談があった際には、必要時専門医療機関及び自助グループにつなぐ等、支援を行う。 ・啓発週間期間に合わせて、相談窓口や区役所等においてポスター掲示を行う他、通年でチラシ・リーフレット等の配布、ホームページ、SNS等を利用した情報発信を行い、市民に対しアルコール健康障害や依存症についての普及啓発を図る。 ・自助グループが作成する機関紙について、相談窓口の他、区役所にも配架し、自助グループの活動について、より多くの市民への普及を図る。	・「依存症家族セミナー」を開催し、当センター医師や専門医療機関専門職の講話、当事者体験談発表等による依存症に関する知識、相談先、医療機関、自助グループ等について啓発を行った。（第1回8/7(3名参加)、第2回10/2(21名参加)、第3回12/14(28名参加)） ・高齢者を支援する機関からの相談に対し、必要時専門医療機関及び自助グループ等の情報提供による支援を行った。 ・啓発週間でのポスター掲示や、チラシ・リーフレット等の配布、依存症に関する情報や取組を当センターホームページ・SNS等に掲載し、情報発信を行った。 ・自助グループが作成する機関紙について、相談窓口の他、区役所にも配架し、自助グループの活動について、より多くの市民への普及を図った。
依存症治療拠点機関	家族向けパンフレットの活用の仕方などの工夫をおこなう。 依存症支援者研修会の中で、当事者に体験談を話してもらう場と活動紹介の場を継続して設ける。	家族向けパンフレットに関しては、全道の保健所に配布し、現在はホームページからダウンロード可能にして利用して頂いている。 支援者研修会では当事者、家族に体験談を話していただいております、参加者からの反応も良好。
北海道作業療法士会	会員作業療法士への啓発を通じた地域高齢者への知識普及（継続） 作業療法士養成施設等における啓発活動（継続）	継続して取り組みを行います。
北海道産業保健総合支援センター	産業医兼研修会の開催、事業主セミナーの開催を開催する。 HP、メールマガジンによる啓発を行う。 事業主、産業保健スタッフ向けセミナー開催、産業医研修会の開催をする。	各種研修会は開催できなかった。 HP、メルマガにより情報発信を行った。
北海道大学大学院医学研究院神経病態学分野精神医学教室	医学部4年目学生を対象に、精神医学の講義の一環として、アルコール依存症を取り上げ、疫学・病態・症状・治療・予防について教育する。	医学部4年目学生を対象に、アルコール依存症を講義で取り上げ、疫学・病態・症状・治療・予防についての知識を普及・啓発した。
札幌医科大学医学部神経精神医学講座	・臨床場面において、飲酒に伴う問題を有する場合等に、当事者や家族等に対して適宜必要な説明を行い、アルコール依存症やその治療等に関する知識の普及啓発を行う。 ・講座主催の勉強会で、当事者の体験談や自助グループ活動を学ぶ機会を持つように努める。 ・アルコール健康障害に関連する問題について、医学部における精神医学の講義や臨床実習において取り上げ、正しい知識の普及をはかる。	・臨床場面において、飲酒に伴う問題を有する場合等に、当事者や家族等に対して適宜必要な説明を行い、アルコール依存症やその治療等に関する知識の普及啓発を行った。 ・アルコール健康障害に関連する問題について、医学部における精神医学の講義や臨床実習において取り上げ、正しい知識の普及をはかった。
北海道アルコール保健医療と地域ネットワーク研究会	前年度と同様に年数回、専門職向けのセミナーを開催する予定	依存症支援に関わる専門職を対象に依存症拠点医療機関と共催で対面及びZOOMにて依存症啓発研修会を2回開催（11/12、2/17）。また主催研修として依存症や引きこもりの支援に用いられる動機付け面接法に関するWebセミナー（8/12）を開催した。
北海道教育委員会	小・中・高等学校の学習指導要領（体育・保健体育）を基に体育・保健体育・保健授業で児童・生徒に指導する。	小・中・高等学校の学習指導要領（体育・保健体育）を基に体育・保健体育・保健授業で児童・生徒に指導した。
北海道断酒連合会	街頭啓発活動等を実施（予定） 依頼に応じて当事者による体験談等を実施（予定） 講演会やセミナーなどを実施（予定）	
環境生活部くらし安全局道民生活課青少年係	20歳未満の飲酒が発達段階にある体の成長に様々な影響をもたらすとともに、これらの行為が非行や犯罪への第一歩ともなることから、早い段階での適切な対策に努める。	

機関名	取組状況	実施状況および評価
札幌マック	・病気の進行のプロセスと人間の変容、依存症者は何を病むのかを自身をモデルとして説明する。 ・若年者、高齢者、女性に向けた啓発資料を作成し、当事者側に理解できる内容の説明を行う。	
札幌マック女性共同作業所	・自助グループの治療的効果、永続的な必要性を、経験的知識をもって伝える。 ・経験談を交えて、飲酒が引き起こす人間の変容と依存症の症状としての暴力や虐待の出現を伝える。	
道立保健所	アルコール関連問題啓発ポスターの掲示や保健所のホームページ、地域の新聞等へアルコール関連問題や相談先を掲載し周知する。 自助グループの活動を把握し情報共有を図るとともに、相談支援において自助グループ活動の周知、情報提供を行うなど連携を図る。 ホームページ等により飲酒による影響等について普及啓発を行う。	・周知、相談支援を実施。適宜自助グループ等と連携。
保健福祉部福祉局障がい者保健福祉課	・啓発資料やホームページ等を活用し普及啓発を行う。 ・道民を対象とした普及啓発セミナーを企画する。	普及啓発、セミナー開催実施。
保健福祉部福祉局高齢者保健福祉課	・市町村や地域包括支援センター等が、リーフレット類の媒体を活用するなどした啓発活動の展開について検討。 ・地域包括支援センター等を対象としたリーフレット類の配布等による普及啓発活動の展開を検討。	(特になし)
保健福祉部健康安全局地域保健課	特定健診保健指導従事者に対する研修会や各種会議における適正飲酒の情報提供	研修会や会議における情報提供に、引き続き取り組む必要がある。
保健福祉部子ども政策局子ども政策企画課	担当課から送付されたアルコール関連問題啓発ポスター等を課内回覧及び掲示	担当課から送付されたアルコール関連問題啓発ポスター等を課内回覧及び掲示した。

(2) 不適切な飲酒の誘引の防止

○20歳未満の者への販売禁止、酒類提供禁止の周知徹底

- ・風俗営業管理者等に対し、管理者講習等を通じて20歳未満の者への酒類提供の禁止の周知を徹底します。
- ・風俗営業を営む者による営業所での20歳未満の者への酒類販売・供与について、指導・取締りを強化します。
- ・酒類を飲用等した少年の補導の強化とその後の指導等を行います。
- ・20歳未満の者及びその家族へ不適切な飲酒を誘引しない啓発活動として、市町村及び酒類関係事業者等と連携し「未成年者飲酒防止・飲酒運転撲滅キャンペーン」を実施します。

機関名	取組状況	実施状況および評価
日本アルコール関連問題ソーシャルワーカー協会北海道支部	R4と同様の活動を目指とする。	
北海道警察本部生活安全部保安課	・風俗営業管理者等に対し、管理者講習等を通じて20歳未満の者への酒類提供の禁止の周知を徹底する。 ・北海道警察少年警察活動規程に基づく街頭補導活動を実施する。 ・街頭啓発や学校の非行防止教室で20歳未満の飲酒に係る注意喚起を実施する。	
北海道小売酒販組合連合会	「20歳未満飲酒防止・飲酒運転撲滅キャンペーン」については新型コロナウイルス感染状況を勘案しつつ全道30組合で実施したいと考えている。八雲・余市は実施済み。札幌地区は9月22日実施予定である。	①「20歳未満飲酒防止・飲酒運転撲滅キャンペーン」については令和5年5月～12月に当会+全道28組合で実施した(参加人員425名)。なお、2組合は雨天のため中止。②旭川小売酒販組合では昨年に続き「20歳未満飲酒防止教室」を定時制高の55名を対象に開催し、注意喚起を行った。

進行予防（二次予防）

（1）健康診断及び保健指導

○健康診断や保健指導等を機会とした早期介入・早期治療

・健康診断や保健指導等においては、医療保険者及び産業医等と連携し、「標準的な健診・保健指導プログラム【平成30年度版】」に定められたアルコール使用障害スクリーニング（AUDIT）を実施し、アルコール依存症が疑われる者には、アルコール依存症の治療を行う医療機関への受診につなげる必要性があることを健康診断や保健指導に従事する者に周知します。
・市町村及び依存症専門医療機関と連携し、市町村保健師や地域包括支援センターによる高齢者支援における早期介入・早期治療につなげられるよう連携体制の構築を図ります。

機関名	取組状況	実施状況および評価
北海道医師会	依頼に基づき、協力を検討いたします。	実施
北海道精神神経科診療所協会	連続飲酒に陥る人、身体・認知機能の低下を来している人について留意し、自助グループや多機関と連携して診ていく。	実施
日本アルコール関連問題ソーシャルワーカー協会北海道支部	コロナウィルスの感染減少に伴い、相談件数の増加が予想されるため、柔軟な対応と状況把握のため、緊密な連携を図る。	
札幌こころのセンター	「札幌市依存症対策地域支援連携会議」等における関係機関間の連携を推進し、依存症相談窓口等において、高齢者を支援する機関より相談があった際には、必要時専門医療機関及び自助グループにつなぐ等、支援を行う。	・会議等の機会を通じて地域包括支援センター等と連携を図り、高齢者を支援する機関からの相談に対し、必要時専門医療機関及び自助グループ等の情報提供を行った。
依存症治療拠点機関	札幌市の地域包括支援センターと連携し事例検討会の定例化などの工夫を行う。	事例検討会は継続して行っているが、地域包括支援センターのみだと対象が限られるため、身体科の病院や障害分野も含めて対象を拡大した。定例化はできていないが、実際の事例を用いて地域や身体科との連携事例を検討している。
北海道作業療法士会	専門医療機関における作業療法介入の他、会員作業療法士への啓発を通して地域連携の準備性を高める。（継続）	日本医療ソーシャルワーカー協会等と連携して取り組みを継続中です。
北海道産業保健総合支援センター	産業医研修会を通じ周知を図るほか、地域産業保健センターの登録産業医、保健師に周知を図る。	研修は開催できなかった。地域産業保健センターのコーディネーター及び保健師に周知を行った。
北海道アルコール保健医療と地域ネットワーク研究会	前年度と同様に年数回、専門職向けのセミナーを開催する予定	依存症支援に関わる専門職を対象に依存症拠点医療機関と共催で対面及びZOOMにて依存症啓発研修会を2回開催（11/12、2/17）。また主催研修として依存症や引きこもりの支援に用いられる動機付け面接法に関するWebセミナー（8/12）を開催した。
保健福祉部福祉局課高齢者保健福祉課	連携体制の構築を図っていく際に、地域包括支援センターの参画を促進できるよう情報提供等を実施。	（特になし）
保健福祉部健康安全局地域保健課	特定健診保健指導従事者に対する研修会での適正飲酒の情報提供	研修会での情報提供に、引き続き取り組む必要がある。

○早期介入できる人材の育成と支援機関の連携

・健康診断や保健指導に従事する者が、問題飲酒はあるがアルコール依存症までには至っていないと判断された者に対し、適切な減酒支援等を実施できるよう、国の研究成果を踏まえ、研修会を通じて人材育成を行います。
・アルコール依存症をはじめアルコール健康障害が疑われる者に対して、減酒や断酒に向けた支援を行うため、精神保健福祉センターや保健所、専門医療機関、自助グループ等の連携づくりを進めます。

機関名	取組状況	実施状況および評価
日本アルコール関連問題ソーシャルワーカー協会北海道支部	オンラインやハイブリッドの開催を視野に入れて協会本部と連携を図り企画・開催を目指す。	
北海道立精神保健福祉センター	・相談援助技術研修依存症研修を開催し、アルコール依存症についての知識を深め支援できる人材を育成する。 ・北海道依存症対策連携会議を開催し、関係機関と連携を図る。	相談援助技術研修依存症研修をR5.19.19～20の2日間で実施した。 （受講者：1日目38名、2日目32名）

札幌こころのセンター	・地域における生活を支援する機関の職員を対象に、依存症患者等の支援を担う人材養成のための研修を、依存症治療拠点機関へ委託して開催する。 ・「札幌市依存症対策地域支援連携会議」を開催し、専門医療機関、相談機関、地域で支援を行う機関・団体・自助グループ等と意見交換を行い、連携を図る。	・地域における生活を支援する機関の職員を対象に、依存症患者等の支援を担う人材養成のための研修を、依存症治療拠点機関へ委託して開催した。（第1回9/23、第2回12/15、第3回2/10開催） ・「札幌市依存症対策地域支援連携会議」を開催し、専門医療機関、相談機関、地域で支援を行う機関・団体・自助グループ等と意見交換を行い、連携を図った。（11/2開催）
依存症治療拠点機関	精神保健福祉センターでの依存症研修で講義を行う。	R5年は依頼なく、実施せず
北海道断酒連合会	各地域において例会や研修会などを実施（予定）	
札幌マック	減酒や節酒に対しての支援は行わない（アルコール依存症と診断されていない人）が、相談は受け、情報提供は行う。	
札幌マック女性共同作業所		
保健福祉部健康安全局 地域保健課	特定健診保健指導従事者に対する研修会での適正飲酒の情報提供	研修会での情報提供に、引き続き取り組む必要がある。
○職域における対応の促進		

・アルコール健康障害に関する産業保健スタッフ等への研修や人事労務担当者等を対象とした事業者向けセミナーの充実を図ります。
--

機関名	取組状況	実施状況および評価
北海道産業保健総合支援センター	事業主、産業保健スタッフ等向けセミナーを開催する。	研修会は開催できなかった。

（２）医療の充実等

○専門医療機関及び治療拠点機関の整備

・道が定めた選定基準によるアルコール健康障害の治療及び医療連携の拠点となる専門医療機関及び治療拠点機関の質の向上に向けて取組を進めます。
--

機関名	取組状況	実施状況および評価
北海道精神神経科診療所協会	オンライン等の勉強会の情報の共有、院内勉強会等を通し、スキルアップを目指す。	実施
日本アルコール関連問題ソーシャルワーカー協会北海道支部	感染状況を配慮しながら研修の参加や連携体制の向上に努める。	
札幌こころのセンター	「札幌市依存症対策地域支援連携会議」等において、専門医療機関間の情報交換や連携を図る。	「札幌市依存症対策地域支援連携会議」等において、専門医療機関間の情報交換や連携を図った。
依存症治療拠点機関	専門医療機関会議の継続と、R4年度のアンケートをもとに、連携強化に向けた取り組みを行う。	専門医療機関会議は1回のみの実施。連携強化は次年度の課題とした。

○アルコール健康障害に係る医療の質の向上

・アルコール依存症が疑われる者を適切な治療に結びつけるため、内科等のかかりつけ医や産業医等に対して、早期介入の手法を含むアルコール依存症等の研修を実施します。 ・内科、産婦人科をはじめとする関係診療科の医療従事者に対し、依存症、生活習慣病、女性の飲酒の影響等、アルコール健康障害に関する知識、家族への支援や自助グループ等との連携の重要性について周知を図ります。 ・アルコール健康障害に係る治療やリハビリテーション、相談に関わる作業療法士やソーシャルワーカー、心理職などの医療従事者の人材育成を図ります。

機関名	取組状況	実施状況および評価
北海道医師会	依頼に基づき、協力を検討いたします。	実施
北海道精神神経科診療所協会	オンライン勉強会の情報の共有、院内勉強会等を通し、スキルアップを目指す。	実施

北海道臨床心理士会	・本会は多領域にまたがった職域を担っているため、医療、福祉、教育、司法等の分野の横断的な問題と位置づけ、会員への情報提供に努める。 ・日本臨床心理士会全国アディクション担当者研修会への出席 ・医療保健領域における本会会員の活動を調査し、医療保健現場において効果的な集団精神療法等を行えるようにする。☒	・メーリングリストにて依存症関係研修会と当会議の内容について会員に対する情報提供を行った。 ・日本臨床心理士会全国アディクション担当者研修会は行われなかった。 ・当会会員が本問題についてどの程度関わっているかも含め、アンケート調査を行った。結果は現在分析中であるが、それを踏まえて今後の取り組みを検討していく。
北海道精神保健福祉士協会	研修の機会を提供（研修情報の提供を含む）	本協会主催の研修は実施していないが、他機関における研修について、会員に向けた情報発信を行っている。
北海道医療ソーシャルワーカー協会	精神科病院と救急病院の地域連携部門、相談部門の連携強化と課題共有の場の設定	継続して取り組みを行います。
日本アルコール関連問題ソーシャルワーカー協会北海道支部	アフターコロナの問題を見据えてソーシャルワーカーの課題を共有して対応力の向上に努める。	
北海道立精神保健福祉センター	かかりつけ医等うつ病対応力向上研修を開催し、内科等のかかりつけ医がアルコール健康障害についての理解を深める機会とする。	かかりつけ医等うつ病対応力向上研修をR5.9.9（札幌会場：受講者97名）及びR5.10.6（苫小牧会場：受講者20名）を実施した。
札幌こころのセンター	・依存症の支援に必要な人材を養成する国の研修について、医療機関への周知に協力する。 ・地域における生活を支援する機関の職員を対象に、依存症患者等の支援を担う人材養成のための研修を、依存症治療拠点機関へ委託して開催する。	・依存症の支援に必要な人材を養成する国の研修について、医療機関への周知に協力した。 ・地域における生活を支援する機関の職員を対象に、依存症患者等の支援を担う人材養成のための研修を、依存症治療拠点機関へ委託して開催した。（第1回9/23、第2回12/15、第3回2/10開催）
依存症治療拠点機関	内科医を交えての啓発研修の継続と、普及啓発に向けた取り組みを検討する。依存症支援者研修会、啓発研修会の周知と内容の工夫を行うと共に、各職種の勉強会などへの協力を継続する。	内科との研修会は継続し、事例検討会も行った。依存症が疑われる患者はいるものの、所属機関の問題もあり、診る仕組み作りには時間がかかりそう。事例検討会を通じて、今できることを確認する作業を継続して行った。啓発研修会ではゲーム障害や性別不合なども扱い、幅広い参加者が見られた。
北海道作業療法士会	養成施設における基礎教育での教育・啓発、および会員作業療法士への研修機会を通して人材育成をはかる。（継続）	
北海道産業保健総合支援センター	産業医研修会を開催する。	研修会は開催できなかった。
北海道大学大学院医学研究院神経病態学分野精神医学教室	アルコール依存症を合併する種々の精神障害患者の治療を通して、多職種の人材育成に寄与する。	アルコール依存症を合併する種々の精神障害患者の治療を通して、多職種の人材育成に寄与した。
札幌医科大学医学部神経精神医学講座	作業療法士やソーシャルワーカー、心理職等が参加する当講座でのカンファレンスや勉強会等において、アルコール健康障害に関する問題を取り上げる。	作業療法士やソーシャルワーカー、心理職等が参加する当講座でのカンファレンスや勉強会等において、アルコール健康障害に関する問題を取り上げた。
北海道アルコール保健医療と地域ネットワーク研究会	前年度と同様に年数回、専門職向けのセミナーを開催する予定	依存症支援に関わる専門職を対象に依存症拠点医療機関と共催で対面及びZOOMにて依存症啓発研修会を2回開催（11/12、2/17）。また主催研修として依存症や引きこもりの支援に用いられる動機付け面接法に関するWebセミナー（8/12）を開催した。
保健福祉部福祉局障がい者保健福祉課	アルコール関連問題啓発週間の機会などに、関係医療機関に対し普及啓発を行うことについて検討する。	アルコール関連問題啓発週間にポスターやリーフレット設置、関係機関へのリーフレット送付等実施

○医療連携の推進

- ・ 専門医療機関及び治療拠点機関を中心に、内科等のかかりつけ医や産業医、アルコール健康障害の治療を実施していない精神科医療機関、民間団体等の関係機関との連携強化を図ります。
- ・ 内科・救急等の一般医療、総合病院、専門医療機関、相談拠点、自助グループ等の関係機関の連携体制（SBIRTS）の構築を推進します。

機関名	取組状況	実施状況および評価
北海道医師会	依頼に基づき、協力を検討いたします。	実施
北海道精神科病院協会	身体疾患の診療施設と連携し、早期発見・治療を実践する	
北海道精神神経科診療所協会	ケア会議等を通して、地域連携、病診連携を続ける。	実施
北海道臨床心理士会	・ 本会は多領域にまたがった職域を担っているため、医療、福祉、教育、司法等の分野の横断的な問題と位置づけ、会員への情報提供に努める。 ・ 日本臨床心理士会全国アディクション担当者研修会への出席 ・ 医療保健領域における本会会員の活動を調査し、医療保健現場において効果的な集団精神療法等を行えるようにする。☒	
北海道精神保健福祉士協会	求めに応じて連携・協力	左記の通り
日本アルコール関連問題ソーシャルワーカー協会北海道支部	感染縮小傾向に敏感に反応しながら関係機関との積極的な連携を図る。	
北海道立精神保健福祉センター	かかりつけ医等うつ病対応力向上研修を開催し、内科等のかかりつけ医がアルコール健康障害についての理解を深める機会とし、連携強化を図る。	かかりつけ医等うつ病対応力向上研修をR5.9.9（札幌会場：受講者97名）及びR5.10.6（苫小牧会場：受講者20名）を実施した。
札幌こころのセンター	・ 地域における生活を支援する機関の職員を対象に、依存症患者等の支援を担う人材養成のための研修を、依存症治療拠点機関へ委託して開催する。 ・ 依存症の支援に必要な人材を養成する国の研修について、医療機関への周知に協力する。 ・ 「札幌市依存症対策地域支援連携会議」を開催し、専門医療機関、相談機関、地域で支援を行う機関・団体・自助グループ等と意見交換を行い、連携を図る。	・ 地域における生活を支援する機関の職員を対象に、依存症患者等の支援を担う人材養成のための研修を、依存症治療拠点機関へ委託して開催した。（第1回9/23、第2回12/15、第3回2/10開催） ・ 依存症の支援に必要な人材を養成する国の研修について、医療機関への周知に協力した。 ・ 「札幌市依存症対策地域支援連携会議」を開催し、専門医療機関、相談機関、地域で支援を行う機関・団体・自助グループ等と意見交換を行い、連携を図った。（11/2開催）
依存症治療拠点機関	・ 内科医を交えての啓発研修の継続と、産業医に向けた研修を検討する。 ・ 他機関との連携体制づくりを模索する。	産業医との連携を模索し、産業医協議会と連絡をとった。次年度産業医研修に協力する予定。連携体制づくりは身体科とは少しずつ行っており、事例検討会で知り合った機関と事例のやり取りを始められている。大きな枠組みでの仕組み作りは不十分だが、できる範囲から広げていければ。
北海道作業療法士会	専門医療機関での作業療法介入のほか、一般精神医療機関等の作業療法士へ研修機会を検討し、当該機関との連携の準備性を高める。（継続） 会員作業療法士への研修・啓発機会の提供により連携の準備性を高める。（継続）	
北海道産業保健総合支援センター	依存症に係る相談窓口を周知する。	HPなどで周知を行った。
北海道大学大学院医学研究院神経病態学分野精神医学教室	アルコール依存症患者の治療を通じて、専門治療機関との連携を強化する。 アルコール依存症患者の治療を通じて、自助グループ等の種々の社会資源との連携を強化する。	アルコール依存症患者の治療を通じて、専門治療機関や自助グループ等の種々の社会資源との連携を強化した。
北海道アルコール保健医療と地域ネットワーク研究会	前年度と同様に年数回、専門職向けのセミナーを開催する予定	依存症支援に関わる専門職を対象に依存症拠点医療機関と共催で対面及びZOOMにて依存症啓発研修会を2回開催（11/12、2/17）。 また主催研修として依存症や引きこもりの支援に用いられる動機付け面接法に関するWebセミナー（8/12）を開催した。

札幌マック	関係機関よりの問い合わせに際し、施設の概要を説明し、要請があれば面談等を実施し、受け入れの可否を回答 自助グループへの積極的参加を促す。連携に関しては要請には随時応じる。	
札幌マック女性共同作業所		
北海道断酒連合会	研修会などの行事において専門医を招いて講演を実施（予定） 研修会や市民公開セミナーなどを実施（予定）	

（３）飲酒運転等をした者に対する指導等

○飲酒運転等をした者に対する指導等

- ・飲酒運転違反者に対する取消処分者講習等において、アルコール使用障害スクリーニング（AUDIT）を実施し、その評価結果から、必要に応じて減酒支援（ブリーフインターベンション）を行い、アルコール依存症が疑われる者に対しては、専門医療機関への受診や相談拠点への相談を促します。
- ・飲酒運転で検挙された道内居住の違反者に対して送付する「行政処分関係書類」に保健指導を勧奨する文書を同封し、保健指導を実施します。
- ・飲酒運転事犯者に対しては、刑事施設や保護観察所における指導等を行う際に、相談機関の紹介や自助グループ等の支援活動、医療機関等の専門治療につなげる取組を推進します。

機関名	取組状況	実施状況および評価
札幌こころのセンター	「北海道飲酒運転根絶に関する条例」に伴って相談勧奨に応じた者に対し、保健指導を実施。	第3四半期時点で実施者なし
札幌保護観察所	保護観察付執行猶予判決を言い渡した裁判所の意見や、仮釈放を許可した地方更生保護委員会の決定に基づく特別遵守事項などに基づく「飲酒運転防止プログラム」を実施する。 また、個々の事件において、アルコール類型と認定した場合には、再犯等を予防するために、対象者やその家族が問題を解決することができるように継続的に働きかけるとともに、医療機関、保健機関、民間支援団体等の協力や支援を得られるよう助言する。	（実施状況）アルコール類型と認定した保護観察対象者等の再犯等を予防するため、継続的な働きかけを行った。 （評価）B（取組は概ね達成（実施）した（引き続き取り組む必要がある）。）
北海道警察本部交通部交通企画課	取消処分者講習において、飲酒運転違反者に対して実施予定	令和5年中420名に対し実施。 取組は概ね実施したが、引き続き取り組む必要がある。
札幌マック	病気の症状としての飲酒運転に関する説明を経験を通して伝える。自助グループや専門医療機関の情報を伝える。	
札幌マック女性共同作業所		
道立保健所	違反者のうち、相談があった者へ保健指導を実施	連携体制あり、相談者への保健指導は適宜実施。
保健福祉部福祉局障がい者保健福祉課	保健指導を勧奨する文書を作成し、道警交通企画課に送付	昨年度左記実施。今年度の取組はない。
環境生活部くらし安全局道民生活課交通安全係	飲酒運転根絶啓発チラシ及び相談支援リーフレットによるアルコール健康障害に関する相談支援や保健指導につなげる啓発を実施	相談支援リーフレットについて、当課ホームページ及び道庁公式Xに掲載し周知を図るとともに、各種会議において参加団体に活用を依頼した。

○暴力・虐待・自殺未遂等をした者に対する指導等

・暴力・虐待、酩酊による事故を起こした者や自殺未遂者について、アルコール依存症等が疑われる場合には、精神保健福祉センター・保健所等を中心として地域の関係機関が連携し、本人やその家族を、アルコール関連問題の相談や自助グループ等の行う節酒・断酒に向けた支援、専門医療機関等における治療につなぐための取組を推進します。

・保健所、市町村等が開催する地域ケア会議や要保護児童対策地域協議会等の事例検討においては、暴力、虐待等の問題がある場合、不適切な飲酒の有無やアルコール依存症への対応についても検討し、必要に応じて関係機関と連携し支援を行います。

・アルコール依存症が自殺の危険因子の一つであることから、アルコール依存症が疑われる者について、地域の関係機関が連携の上、必要に応じて精神科医療につなげるとともに、北海道自殺対策行動計画に基づき、その背景にある心理社会的・経済的要因の視点も踏まえつつ、精神科医療、保健、福祉等の各施策の連動性を高め、包括的な対応を推進します。また、自殺・うつ・アルコール問題の相互の関係性を踏まえ、相談機関の連携体制の整備、総合的な相談対応ができる人材養成、自殺予防の啓発や飲酒後の自殺未遂者の再度の自殺企図の防止等の対策を推進します。

機関名	取組状況	実施状況および評価
北海道医師会	依頼に基づき、協力を検討いたします。	実施
北海道薬剤師会	自殺対策に関する研修会等への参加を促進する。	自殺対策に関する研修会等への参加を促進している。B
北海道臨床心理士会	・本会は多領域にまたがった職域を担っているため、医療、福祉、教育、司法等の分野の横断的な問題と位置づけ、会員への情報提供に努める。 ・日本臨床心理士会全国アディクション担当者研修会への出席 ・医療保健領域における本会会員の活動を調査し、医療保健現場において効果的な集団精神療法等を行えるようにする。	
北海道精神保健福祉士協会	随時対応。同時に、対応が可能な専門的力量的の育成のため、研修の機会を提供（研修情報の提供を含め） 関係機関との連携を図りつつ、人員の派遣を含めて協働していく。	
日本アルコール関連問題ソーシャルワーカー協会北海道支部	前年度と同様の活動を目標とする。 感染縮小傾向に敏感に反応し、より積極的に状況の把握と情報の共有に努める。	
北海道立精神保健福祉センター	こころの電話相談や来所相談等を行い、自殺を考えている方やアルコール依存症等を疑われる方及びその家族を支援する。 必要に応じ、保健所等への技術支援を行う。 行政課題研修「自殺対策研修」を開催し、自殺・うつ・アルコール問題の相互関係性を理解し、総合的な相談対応ができる人材を育成する。	R5.9.1に自殺対策研修を実施した。 受講者：41名
札幌こころのセンター	「札幌市依存症相談窓口」において、本人・家族等へ電話・面接等で専門相談を実施し、相談者が専門医療機関及び自助グループ等につながるよう支援する。 当センターが参加するケア会議・連絡会議において、飲酒問題や依存症の可能性のある事例については、関係機関と適宜連携・協働して支援を実施。 ・「札幌市依存症対策地域支援連携会議」を開催し、専門医療機関、相談機関、地域で支援を行う機関・団体・自助グループ等と意見交換を行い、連携を図る。 「札幌市依存症相談窓口」において、本人・家族等へ電話・面接等で専門相談を実施し、相談者が専門医療機関及び自助グループ等につながるよう支援する。	・「札幌市依存症相談窓口」において、本人・家族等へ電話・面接等で専門相談を実施し、相談者が専門医療機関及び自助グループ等につながるよう支援した。また、飲酒問題や依存症の可能性のある事例について、関係機関へ情報提供等を実施した。 ・「札幌市依存症対策地域支援連携会議」を開催し、専門医療機関、相談機関、地域で支援を行う機関・団体・自助グループ等と意見交換を行い、連携を図った。（11/2開催）
北海道作業療法士会	会員作業療法士への研修・啓発機会の提供による自殺問題に関する連携の準備性を高める。	
札幌医科大学医学部神経精神医学講座	自殺未遂者への対応に関して、アルコール依存症等の問題も含めた相談対応や再企図防止の対策について、関係の従事者への知識普及に努める。	自殺未遂者への対応に関して、アルコール依存症等の問題も含めた相談対応や再企図防止の対策について、関係の従事者への知識普及に努めた。
北海道中央児童相談所	虐待予防や養育支援、近年注目のヤングケアラー対策として、アルコール課題のある保護者への働きかけ等、要対協機能を基軸に関係機関と連携し実施する。	虐待予防や養育支援、近年注目のヤングケアラー対策として、アルコール課題のある保護者への働きかけ等、要対協機能を基軸に関係機関と連携し実施した。
道立保健所	アルコール依存症等の背景をアセスメントしながら、対象者の相談支援に対応する。 必要に応じ、市町村等が開催する地域ケア会議や要対協に参加し、関係機関との連携の上、支援を実施	必要時連携し支援を実施。
保健福祉部福祉局障がい者保健福祉課	9月の自殺予防週間、3月の自殺対策強化月間に併せて、アルコール問題との関係性を周知する。	リーフレット等の設置による普及啓発実施。
保健福祉部福祉局高齢者保健福祉課	市町村が開催する地域ケア会議において、不適切飲酒やアルコール依存症等の問題がある場合、対応について検討できるよう関係機関と連携した支援を実施。	取組は概ね実施している

子ども政策局子ども家庭支援課	必要に応じ、市町村等が開催する地域ケア会議や要対協に参加し、関係機関との連携の上、支援を実施	不適切飲酒やアルコール依存症等の問題がある場合、必要に応じて、関係機関と連携した支援について検討しており、引き続き、取り組みは必要である。
----------------	--	---

(4) 相談支援

○相談支援体制の構築

・道立精神保健福祉センターを全道の中心となる相談拠点とし、複雑又は困難なものに対応する相談対応を行います。また、保健所を各地域の相談拠点として位置づけ、市町村や自助グループ等の関係団体と連携した相談支援体制を構築します。 ・道立精神保健福祉センターや保健所から、適切な医療機関を紹介するほか、必要に応じて自助グループを紹介するなど、断酒や節酒に向けた支援を行います。 ・保健所による中小企業への普及啓発や出前講座、保健所主催のミーティングの開催等の取組を促進するなど、地域及び職域での様々な場面における相談支援を充実します。 ・大規模自然災害、感染症の流行等の危機に際しても、依存症当事者やその家庭が回復に向けた取組を継続できるよう地域の関係機関と連携し支援を行います。 ・相談窓口や関係機関を掲載した「アルコール健康障害対策支援機関アクセスマップ」を配布するなど、周知啓発活動を行います。

機関名	取組状況	実施状況および評価
北海道医師会	依頼に基づき、協力を検討いたします。	実施
北海道臨床心理士会	・本会は多領域にまたがった職域を担っているため、医療、福祉、教育、司法等の分野の横断的な問題と位置づけ、会員への情報提供に努める。 ・日本臨床心理士会全国アディクション担当者研修会への出席 ・医療保健領域における本会会員の活動を調査し、医療保健現場において効果的な集団精神療法等を行えるようにする。	
北海道精神保健福祉士協会	災害時支援体制を協会として構築している。災害時においては、地元自治体・関係機関との連携を図りながら、支援を行う。	自治体との連携を検討中
日本アルコール関連問題ソーシャルワーカー協会北海道支部	前年度と同様の活動を目標とする。 前年度の活動をより促進するように努める	
北海道立精神保健福祉センター	複雑または困難な相談に対する対応を行う。また、道立保健所からの相談事例のコンサルテーションを行う。 来所、電話等を通して当事者、家族等に必要な社会資源を紹介する。 胆振東部地震の災害支援後のフォローアップとして、必要時相談対応等を行う。（実施終了） 相談窓口や関係機関を掲載した「アルコール健康障害対策支援機関アクセスマップ」を相談者に配布する。	アルコール依存関係の相談事例のコンサルテーション（1件）を実施。 来所、電話による相談に随時対応している。
札幌こころのセンター	「札幌市依存症相談窓口」において、本人・家族等へ電話・面接等で専門相談を実施し、相談者が専門医療機関及び自助グループ等につながるよう支援する。 ・「札幌市依存症相談窓口」において、本人・家族等への相談の実施、災害等対応を行う地域の支援者に対して依存症に係る技術指導及び技術援助を行っていく。 ・「依存症家族セミナー」は、オンライン参加も含めたハイブリッド開催を検討する。	・「札幌市依存症相談窓口」において、本人・家族等へ電話・面接等で専門相談を実施し、相談者が専門医療機関及び自助グループ等につながるよう支援した。なお、災害等対応を行う支援者に対する依存症に係る技術指導及び技術援助の実施はなかった。 ・「依存症家族セミナー」を、オンライン参加も含めたハイブリッド方式で開催した。（第1回8/7、第2回10/2、第3回12/14開催）
北海道作業療法士会	会員作業療法士への研修・啓発機会の提供により災害時等における連携の準備性を高める。（継続）	依存症拠点機関及び関連団体が提供する研修会の周知を行い参加機会を設けた。
札幌医科大学医学部神経精神医学講座	依存症当事者やそ家族に対して、必要な臨床的支援が得られるように努める。	
札幌マック	相談支援機関からの問い合わせに際し、可能な支援を提供する。直接の相談には、当施設を含めた各機関・施設を紹介する。	
札幌マック女性共同作業所		
北海道断酒連合会	例会や研修会のほか電話による相談を実施（予定）	

道立保健所	地域の相談拠点として、住民や関係機関等からの相談に対応し地域の社会資源と連携した支援を行う。 支援対象者の状況に応じ、必要な社会資源を紹介し連携した支援を行う。 アルコールに関する健康教育の依頼があった際は随時対応する。	・必要時相談対応実施
保健福祉部福祉局障がい者保健福祉課	手軽にアクセスできるようにQRコードなどを掲載したポスターの配布や掲示（普及啓発週間、アリオ札幌でポスター掲示）。関係機関については随時確認し更新を行い、内容の充実を図る。	各種パネル展等でのリーフレット設置、ポスター貼付実施。

○相談支援従事者の育成

・依存症治療拠点機関、精神保健福祉センターにおいて、保健所及びアルコール関連問題に関する関係機関に対し、従事者の研修、啓発等を行うことにより、相談支援を行う者の人材育成、関係機関の連携体制の強化を図ります。

機関名	取組状況	実施状況および評価
北海道精神保健福祉士協会	研修の機会の提供（情報提供を含む）	左記の通り
日本アルコール関連問題ソーシャルワーカー協会北海道支部	前年度の活動をより促進するように努める。	
北海道立精神保健福祉センター	相談援助技術研修「依存症研修」を開催し、支援に係る人材の育成を図る。	相談援助技術研修依存症研修をR5.19.19～20の2日間実施した。 （受講者：1日目38名、2日目32名）
札幌こころのセンター	・地域における生活を支援する機関の職員を対象に、依存症患者等の支援を担う人材養成のための研修を、依存症治療拠点機関へ委託して開催する。 ・依存症の支援に必要な人材を養成する国の研修について、医療機関への周知に協力する。	・地域における生活を支援する機関の職員を対象に、依存症患者等の支援を担う人材養成のための研修を、依存症治療拠点機関へ委託して開催した。（第1回9/23、第2回12/15、第3回2/10開催） ・依存症の支援に必要な人材を養成する国の研修について、医療機関への周知に協力した。
依存症治療拠点機関	依存症支援者研修会、啓発研修会の開催。精神保健福祉センター主催の研修会への協力の継続	各研修会を実施している。地域からの参加が増えている状況。

再発予防（三次予防）

（1）社会復帰への支援

○アルコール依存症からの回復支援

- ・アルコール依存症は、治療や回復に向けた支援を行うことにより回復できる病気であり、社会復帰が可能であること等、職域を含めた社会全体に啓発し、アルコール依存症に対する理解を促します。
- ・自助グループの活動や回復施設等の取組について関係機関で情報を共有し、相談者が適切な支援につながるよう情報提供を行い、自助グループ及び回復施設の活用につなげます。
- ・本人の治療、回復には、家族の協力が重要であり、家族に対し、当事者と同様の支援や治療に関する情報を提供することにより、家族自身がアルコール依存症への理解を深められるよう支援します。
- ・職域においては、就労及び復職が偏見なく行われるよう、職場における理解や支援を促進します。

機関名	取組状況	実施状況および評価
北海道医師会	依頼に基づき、協力を検討いたします。	実施
北海道精神科病院協会	断酒会、AA等の自助グループとの連携し、長期断酒を応援する。他の薬物やギャンブル等の依存症、うつ病や認知症等の重複障害を含む治療を行い、断酒を図る。	左記の内容は、大体実施できている。
北海道精神神経科診療所協会	地域連携の中、アルコール問題を抱える人の見守りを続け、治療中断者には電話や訪問による声かけを行う。 アルコール問題を抱える人を自助グループにつなげ、ミーティングに参加し続けられるよう支援する。 アルコール問題の背景にある気分障害や発達障害等について診断と治療を行う。	実施
北海道臨床心理士会	・医療保健機関や自助グループとも連携し、引き続き対人コミュニケーションならびに心的外傷が認められる人への臨床心理学的アプローチに努める。 ・日本臨床心理士会全国アディクション担当者研修会への出席をし、本会会員への情報共有を図る。	・日本臨床心理士会全国アディクション担当者研修会は行われなかった。 ・会員各々がその臨床現場において取り組んでいるものと推察されるが、この課題にどの程度関わっているかも含め、アンケート調査を行った。結果は現在分析中であるが、それを踏まえて今後の取り組みを検討していく。
北海道精神保健福祉士協会	自助グループとの連携・自助グループに関する情報提供を行っていく（情報の更新を含め） 情報収集・提供を含めて、随時対応（家族会支援を含める）	
北海道医療ソーシャルワーカー協会	・依存症リカバリーソーシャルワークチームの活動 ・専門職の相談窓口、専門治療先の窓口の公開	日本医療ソーシャルワーカー協会等と連携して取り組みを継続中です。
日本アルコール関連問題ソーシャルワーカー協会北海道支部	感染縮小傾向に敏感に反応し、より積極的に関係機関との連携強化状況の把握と情報の発信に努める。	
北海道立精神保健福祉センター	相談援助技術研修依存症研修を開催し、アルコール依存症への理解を促す。 北海道依存症対策連携会議を開催し、関係機関と連携を図る。 全道域で活動する精神保健福祉団体に対する支援協力する。 家族からの相談に対してアルコール健康障害についての情報を提供し、支援する。	相談援助技術研修依存症研修をR5.19.19～20の2日間で実施した。 （受講者：1日目38名、2日目32名）

札幌こころのセンター	・自助グループ等を講師とした「依存症家族セミナー」を開催し、依存症に関する知識、相談先、医療機関、自助グループ等について啓発を行う。 ・自助グループが作成する機関紙について、相談窓口の他、区役所にも配架し、自助グループの活動について、より多くの市民への普及を図る。 ・啓発週間でのポスター掲示や、チラシ・リーフレット等の配布、依存症に関する情報や取組を当センターホームページ・SNS等に掲載し、情報発信を行う。 ・「札幌市依存症相談窓口」において、本人・家族等へ電話・面接等で専門相談を実施し、相談者が専門医療機関及び自助グループ等につながるよう支援する。 ・家族が本人と望ましいコミュニケーション等を学ぶためのプログラムを活用した「家族向けプログラム教室」を実施する。 「札幌市依存症対策地域支援連携会議」を開催し、専門医療機関、相談機関、地域で支援を行う機関・団体・自助グループ等と意見交換を行い、連携を図る。	・「依存症家族セミナー」を開催し、当センター医師や専門医療機関専門職の講話、当事者体験談発表等による依存症に関する知識、相談先、医療機関、自助グループ等について啓発を行った。（第1回8/7(3名参加)、第2回10/2(21名参加)、第3回12/14(28名参加)） ・自助グループが作成する機関紙について、相談窓口の他、区役所にも配架し、自助グループの活動について、より多くの市民への普及を図った。 ・啓発週間でのポスター掲示や、チラシ・リーフレット等の配布、依存症に関する情報や取組を当センターホームページ・SNS等に掲載し、情報発信を行った。 ・「札幌市依存症相談窓口」において、本人・家族等へ電話・面接等で専門相談を実施し、相談者が専門医療機関及び自助グループ等につながるよう支援した。 ・家族が本人と望ましいコミュニケーション等を学ぶためのプログラムを活用した「家族向けプログラム」を個別に実施した。 ・「札幌市依存症対策地域支援連携会議」を開催し、専門医療機関、相談機関、地域で支援を行う機関・団体・自助グループ等と意見交換を行い、連携を図った。（11/2開催）
依存症治療拠点機関	家族向けパンフレットの活用の仕方などの工夫をおこなう。	家族向けパンフレットは各保健所に送り、使用して頂いているよう。その後、病院ホームページで公開、ダウンロードしている。
北海道作業療法士会	会員作業療法士への研修・啓発機会の提供（継続） 会員作業療法士への研修機会を通した自助グループ等の活動の情報共有（継続）	依存症拠点機関及び関連団体が提供する研修会の周知を行い参加機会を設けた。また学会等で当事者との協働によるシンポジウムを企画し、情報の提供・共有を図った。
札幌医科大学医学部神経精神医学講座	アルコール依存症の治療や回復に向けた道筋等について、大学や各種専門学校等の講義やセミナーにおいて取り上げ、正しい知識の普及に努める。 自助グループの活動や回復施設等の取組について、相談者に適宜必要な情報を提供する。 相談や治療の際に、当事者と家族に必要な情報を提供し、家族のアルコール依存症への理解を支援する。	
北海道アルコール保健医療と地域ネットワーク研究会	前年度と同様に年数回、専門職向けのセミナーを開催する予定	依存症支援に関わる専門職を対象に依存症拠点医療機関と共催で対面及びZOOMにて依存症啓発研修会を2回開催（11/12、2/17）。また主催研修として依存症や引きこもりの支援に用いられる動機付け面接法に関するWebセミナー（8/12）を開催した。
北海道アルコール看護研究会	年1回～3回の精神科専門職対象の研修会を行い、専門知識をつけることで、地域における適切なケアや医療における適切な治療につなげる。	R5年度は8月20日に「依存症基礎講座」を開催。旭山病院の中山先生、手稲溪仁会病院の白坂先生にご講演をいただいた。ハイブリット開催となり、61名の参加があった。今後も継続して開催していく必要がある。
北海道教育委員会	中・高等学校の学習指導要領（体育・保健体育）を基に体育・保健体育・保健授業で児童・生徒に指導する。	中・高等学校の学習指導要領（体育・保健体育）を基に体育・保健体育・保健授業で児童・生徒に指導した。
北海道産業保健総合支援センター	HP等による情報提供。 事業主セミナーを通じ啓発を行う。 事業主、産業保健スタッフ向けセミナーの開催。産業医研修会開催する。	ホームページで情報提供を行った。各種研修会は開催できなかった。

札幌マック	(当事者を受入、入所施設にて回復のプログラムを実践していることを含め) 関係機関に施設のプログラムの概要を紹介し、当事者の経験談を提供する。施設見学は随時受け入れる。セミナーを開催し、広く回復をPRする。 関係機関との情報の共有を図る。自助グループの会場の開催状況を把握し、適切な情報を伝える。 家族に対する支援の資料を確保し、家族の回復への情報提供を行う。要請があれば研修等で施設の概要やプログラムの説明、当事者の経験談の提供を行う。	北大学生施設ミーティング見学、北見においてセミナーを開催、医療機関へのメッセージミーティング等、回数は少ないが通年行っていることは実施できた。医療機関との間で依存症当事者に関する情報共有は積極的に行った。家族に向けた資料の作成等は手をつけることが出来なかった。依存症本人からの問い合わせは数件あったが、家族からの問い合わせは殆どなかった。(評価はB)
札幌マック女性共同作業所		女性作業所は2月1日廃止
青十字サマリヤ会	当事者の社会復帰支援として障害者総合支援法に基づく障害福祉サービスとして宿泊型自立訓練及び自立訓練(生活訓練)の事業を提供して行く。また、コロナ過の中ではあるが開催可能な状況ならば依存症からの回復をテーマにサマリヤ館セミナー11月23日かでの27の大会議室にて入館者や退館者の回復への体験談を中心に、当事者、家族、各関係者の方々が参加していただきセミナーを開催したい。	事業を継続して三次予防の社会復帰施設として実施した。サマリヤ館セミナーも開催することが出来た。
北海道断酒連合会	・市民や家族を対象にした「お酒と健康を考える市民フォーラム」や「家族セミナー」を自助グループと共催等により実施し、アルコール健康障害に対する正しい知識の普及啓発を図る。 ・北海道内の依存症相談窓口と専門医療機関についての普及周知チラシ、ホームページ、SNS等を利用し市民に対しアルコール健康障害や依存症についての普及啓発を図る。 必要に応じて地域活動等の情報を提供(予定) 例会や研修会のほか電話による相談を実施(予定)	
道立保健所	ホームページ等により飲酒による影響等について普及啓発を行う。 支援対象者の状況に応じ、必要な社会資源を紹介し連携した支援を行う。 家族も含めた相談支援を行い、家族がアルコール依存症について理解を深めることができるよう関わる。	実施。
保健福祉部福祉局障がい者保健福祉課	啓発資料やホームページ等を活用し普及啓発を行う。	実施。

(2) 民間団体の活動に対する支援

○自助グループ等との連携推進

- ・精神保健福祉センター、保健所、市町村等においては、自助グループ等を地域の貴重な社会資源とし、相談等の事業を共同して実施するとともに活動の周知に協力し、必要な支援を行います。
 - ・自助グループや回復施設を利用した回復者の体験談や回復事例などを広く道民に紹介すること等により、回復支援における自助グループの役割や意義を広く啓発し、社会全体での自助グループに関する認知度を高めます。
- また、アルコール依存症者の回復支援に当たっては、その家族へ支援や女性及び高齢者特有の問題に配慮した対応が必要であることを周知します。
- ・アルコール関連問題に関する啓発に関し、自助グループや関係団体等と連携し、より効果的な理解促進のための取組を推進します。

機関名	取組状況	実施状況および評価
北海道精神科診療所協会	アルコール問題を抱える人を自助グループにつなげ、ミーティングに参加し続けられるよう支援する。	実施
日本アルコール関連問題ソーシャルワーカー協会北海道支部	感染縮小傾向に敏感に反応し、回復者施設や自助グループとの連携強化に努める。	
北海道立精神保健福祉センター	相談者の状況に応じ、必要な社会資源を紹介し、関係機関との連携を取りながら支援を図る。	相談時に必要に応じて社会資源を紹介している。
札幌こころのセンター	・自助グループ等を講師とした「依存症家族セミナー」を開催し、依存症に関する知識、相談先、医療機関、自助グループ等について啓発を行う。 ・自助グループが作成する機関紙について、相談窓口の他、区役所にも配架し、自助グループの活動について、より多くの市民への普及を図る。	・「依存症家族セミナー」を開催し、当センター医師や専門医療機関専門職の講話、当事者体験談発表等による依存症に関する知識、相談先、医療機関、自助グループ等について啓発を行った。(第1回8/7(3名参加)、第2回10/2(21名参加)、第3回12/14(28名参加)) ・自助グループが作成する機関紙について、相談窓口の他、区役所にも配架し、自助グループの活動について、より多くの市民への普及を図った。

札幌マック	自助グループの活動の現況を把握し、相談対応に役立てる。 近隣の自助グループや他の回復支援施設と繋がりを持ち、必要な時には情報の開示・共有に努める。	自助グループとの繋がり、情報把握等は機能しているが、他回復支援施設との連携は殆どなかった。（評価はC）
札幌マック女性共同作業所		女性作業所は2月1日廃止
北海道断酒連合会	依頼照会等に対して情報提供を実施 機関紙等により活動を紹介（予定）	
道立保健所	ホームページ等により飲酒による影響等について普及啓発を行う。 地域の相談拠点として、住民や関係機関等からの相談に対応し地域の社会資源と連携した支援を行う。	左記実施。
保健福祉部福祉局障がい者保健福祉課	啓発資料やホームページ等を活用し普及啓発を行う。	左記実施。
保健福祉部福祉局高齢者保健福祉課	市町村や地域包括支援センターが開催する研修会や啓発活動等において、依存症専門医療機関が作成したパンフレットを活用するなどして高齢者特有の問題に配慮した対応への周知や、自助グループの意義や役割への理解が深まるような取組の推進について検討。	（特になし）
子ども政策局	女性の健康週間（3月上旬頃）の普及啓発の取組の中で、依存症の理解のためのリーフレット活用を促す。	依存症の理解に特化した周知依頼は行わなかった。

○自助グループ等への支援

・自助グループ等が活動しやすいように、関係機関と連携を図り、それぞれの団体の機能に応じた役割を果たす機会や場所を提供するなど、自助グループ等の活動の支援に努めます。

機関名	取組状況	実施状況および評価
日本アルコール関連問題ソーシャルワーカー協会北海道支部	感染縮小傾向に敏感に反応し、回復者施設や自助グループとの連携強化に努める。	
北海道立精神保健福祉センター	全道域で活動する精神保健福祉団体等に対する支援協力を図る。 必要に応じて自助活動に取り組みよう助言等を行う。	アルコール依存関係団体・自助グループの啓発資料等を設置し、必要に応じて相談者に紹介している。
札幌こころのセンター	・自助グループ等を講師とした「依存症家族セミナー」を開催し、依存症に関する知識、相談先、医療機関、自助グループ等について啓発を行う。 ・自助グループが作成する機関紙について、相談窓口の他、区役所にも配架し、自助グループの活動について、より多くの市民への普及を図る。	・「依存症家族セミナー」を開催し、当センター医師や専門医療機関専門職の講話、当事者体験談発表等による依存症に関する知識、相談先、医療機関、自助グループ等について啓発を行った。（第1回8/7(3名参加)、第2回10/2(21名参加)、第3回12/14（28名参加）開催） ・自助グループが作成する機関紙について、相談窓口の他、区役所にも配架し、自助グループの活動について、より多くの市民への普及を図った。
札幌マック	会議・研修への積極的参加を通して、連携に寄与できる体制を整える。 市内及び道内の自助グループの活動状況を把握し、相談対応には正確な情報を伝え、合わせて自助グループの概要も説明する。	会議・研修への積極的参加は実施できている。自助グループの活動状況把握も出来ている。問い合わせにも対応出来ている。評価はB
札幌マック女性共同作業所	会議・研修への積極的参加を通して、連携に寄与できる体制を整える。 市内及び道内の自助グループの活動状況を把握し、相談対応には正確な情報を伝え、合わせて自助グループの概要も説明する。	女性作業所は2月1日廃止
北海道断酒連合会	S B I R T S 普及促進セミナーの実施（R5年6月10日開催予定） ・SBIRTS：早期での発見・介入・治療に自助グループの活動を加えた取り組み 例会や研修会などを実施（予定）	
道立保健所	・地域の自助グループや関係団体の活動を把握しながら、リーフレットやホームページによる啓発活動を行う。 ・自助グループの活動を把握し情報共有を図るとともに、自助グループと連携した相談支援を行う。	・ケースの状況に応じ必要時自助グループと連携した支援を実施。